

**製品名: Smg1 (6X2) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe18019**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	411kDa

**抗原情報**

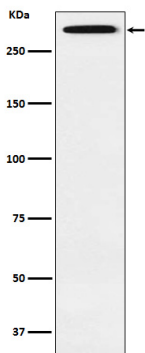
遺伝子名	SMG1
別名	61E3.4; ATX; hSMG1; LIP; smg1;
遺伝子 ID	23049.0
SwissProt ID	Q96Q15
免疫原	ヒト Smg1 の合成ペプチド

**背景**

mRNA 監視および遺伝毒性ストレス応答経路の両方に関与するセリン/スレオニンプロテインキナーゼ。基質コンセンサス配列[ST]-Q を認識します。UPF1/RENT1 をリン酸化することにより、未熟終止コドンを含む mRNA のナンセンス依存性分解 (NMD) において中心的な役割を果たします。mRNA 監視および遺伝毒性ストレス応答経路の両方に関与するセリン/スレオニンプロテインキナーゼ。基質コンセンサス配列[ST]-Q を認識します。UPF1/RENT1 をリン酸化することにより、未熟終止コドンを含む mRNA のナンセンス依存性分解 (NMD) において中心的な役割を果たします。SMG8 および SMG9 (SMG1C プロテインキナーゼ複合体を形成) および UPF1 とともに停止したリボソームに解離因子によってリクルートされ、一過性 SURF (SMG1-UPF1-eRF1-eRF3) 複合体を形成します。EJC 依存性 NMD において、SURF 複合体は UPF2 を介してエクソンジャンクション複合体 (EJC) と会合し、NMD を活性化すると考えられている UPF1-UPF2-UPF3 監視複合体の形成を可能にする。また、ATM と機能的に一部重複する遺伝毒性ストレス活性化プロテインキナーゼとしても機能する。p53/TP53 をリン酸化することができ、細胞が遺伝毒性ストレスに曝露された後の p53/TP53 の最適な活性化に必要である。SURF の枯渇は、自発的な DNA 損傷と電離放射線 (IR) に対する感受性の上昇につながる。PRKCI を活性化する可能性があるが、PRKCZ は活性化しない。

## 研究分野

## 画像データ



Saos2 細胞溶解物中の Smg1 発現のウェスタン プロット分析。